

秦野市公共施設再配置計画推進会議開催結果

会議名	■ 令和 5 年度 第 1 回 本部会		
	□ 令和 年度 第 回		プロジェクトチーム
	□ 令和 年度 第 回		ワーキンググループ
開催日時	令和 5 年 4 月 10 日 (月) 午後 2 時 ~ 午後 2 時 45 分		
開催場所	3 A 会議室		
出席者	内田副市長 (総括責任者)	高橋副市長	佐藤教育長
	政策部長	総務部長	くらし安心部長
	福祉部長	こども健康部長	教育部長
	生涯学習課長 (代理出席)		
	事務局 行政経営課長 行政経営課課長代理		
議 題	1 各施設における検討状況について		
	2 その他		
配付資料	資料 1 新たな学びのスタイルに対応した学校のあり方<基本スタイル>骨子 (案)		
	資料 2 南公民館及び大根公民館の整備の方向性について (案)		
	資料 3 西公民館利用者アンケート結果について		
	資料 4 令和 4 年 11 月 17 日 付け 通知 「老人いこいの家くずは荘の今後の方向性について」		
	参考資料 1 学校施設との複合化に向けた検討スケジュール		
	参考資料 2 南公民館のリース方式による整備について		
会 議 結 果			
令和 4 年度のプロジェクトチームにおいて検討した経過を報告した結果、今後の方向性 (案) については、全て承認され、推進会議として正式決定したものの。			
会 議 概 要			
1 各施設における検討状況について			
配付資料に基づき、事務局から説明			
① 資料 1 の教室の面積について、将来的には広くすることが想定されているが、現状の面積で、今の教育をしていることについては問題はないのか。			
→ 現状は、旧基準に基づいた面積となっているが、制度上問題があるわけではない (内田副市長)。			
→ 充電保管庫や配膳台などを想定しない設計の中で、G I G A スクールや給食が始まっているので、実態としては十分な間隔を保てていない (佐藤教育長)。			
② 事務所などは普通の机ではなく、フリーに使用できる仕様になってきている。児童生徒の机も新たな考え方になってきているのか。			
→ 資料 1 の「オープンスペースの充実」がそれに該当する。先生が黒板の前に立って授業するのではなく、子どもたちが自ら集まって学ぶスタイルに変わっていく。こうした多様な授業の形に対応できるスペースを作っていくことになる。さらに、教室にロッカーを設置しないので、フリーに使えるスペースが充実する想定である (佐藤教育長)。			
→ コロナ禍では、全員が前を向いて授業を受けざるを得なかったが、今後は、先生を中央にして、子どもたちが囲むスタイルも想定できる (内田副市長)。			

③ 学校の一体的整備によって、「公共施設再配置計画」上の削減面積の数値目標を上回った場合、今後、駅前周辺のにぎわい創造に取り組んでいく中で、必要な施設を建ててもよいのか。

→ 計画の基本方針に照らせば、理論上建てられることになる。ただし、財政負担の平準化等を考慮し、PPP・PFIなど、公民連携による手法を優先的に検討した中で進めていく必要があると考える（事務局）。

④ 西公民館のアンケート結果について、ワーキンググループの中では、双方の音の課題のほか、学校の安全性について問題がない旨触れられていたがどう考えているか。

→ このアンケート調査を実施した段階で学校の意見を確認した中では、防犯面での安全性について具体的な言及がなかったため、大きな問題はないと思っている。しかし、一番重要な要素であると考えているので、今後も先進事例の視察や研究を重ねながら、最善の方法を模索していきたい（生涯学習課長）。

2 その他

事務局から、今後のスケジュールについて報告

備考	
----	--